

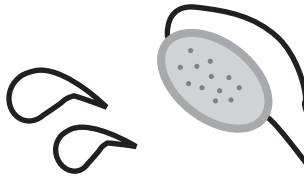
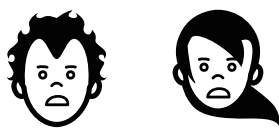


妊娠するとこまるとき、妊娠を防ぐ方法が「<sup>ひにん</sup>避妊」

まちがった情報にふりまわされず、2人で<sup>たいやく</sup>リスク対策をすれば

もっと安心できる関係に！

<p>1</p> <p>コンドームがなくても 外に出せば大丈夫!!</p> 	<p>2</p> <p>安全日ならナマで大丈夫!!</p> <p>SUN MON TUE WED THU FRI SAT</p> 
<p>3</p> <p>シャワーやウォシュレットで 流せば大丈夫!!</p> 	<p>4</p> <p>…っていうのは 全部<sup>ウソ</sup>です!!!!</p> <p>え———!</p> 


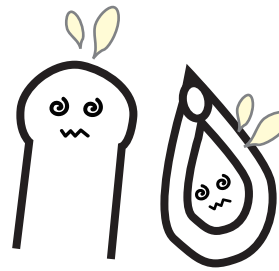
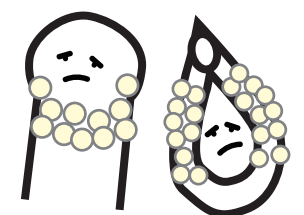
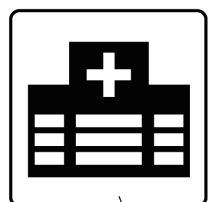
11

STI (Sexually Transmitted Infections) <sup>せいがんせんしやう</sup> 性感染症

10代・20代の若い世代にも広がっている性感染症

性関係をもてば、だれでもかかるリスクがあります

しっかり予防して、気になるときは早めの<sup>ちりやう</sup>検査・治療を!

<p>1</p> <p>かゆい 赤くはれてる いたい</p> 	<p>2</p> <p>精液やおりものがヘン</p> 
<p>3</p> <p>イボやブツブツ</p> 	<p>4</p> <p>そんな時は病院へ!</p>  <p>GO!!!</p>

13

知っておきたい<sup>ひにん</sup>避妊のウソ

× <sup>ちつがいしやせい</sup>腔外射精(外出し)で避妊ができる >> ○ <sup>ちつがいしやせい</sup>腔外射精でも妊娠することはある  
腔外射精は、射精直前に男性器を腔から抜いて射精する方法。射精前に出てくる透明な液体にも精子が含まれるので、避妊にはなりません。

× 安全日・生理中なら妊娠しない >> ○ 妊娠を絶対しない「安全日」はない  
子宮の中で精子は3~7日生き残ることも。腔からの出血が必ず月経とは限らない上、特に若くて月経周期が安定しないうちは、いつでも妊娠の可能性があると考えていいでしょう。

× 性交後に腔の中を洗えば避妊ができる >> ○ 性交後、避妊する方法は<sup>きんきゆうひにんやく</sup>緊急避妊薬のみ  
シャワーなどが届かない子宮の奥に精子が入ってしまうので、避妊効果はありません。

カクジツで手軽な<sup>ひにん</sup>避妊方法って?

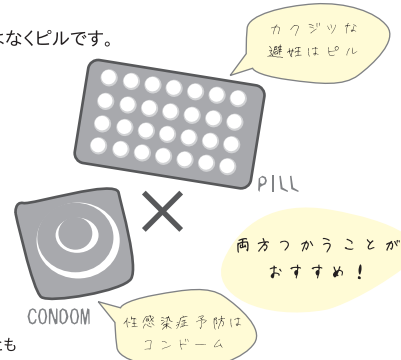
確実な避妊法は、男性まかせのコンドームではなくピルです。

● <sup>ていりやう</sup>低用量ピル

- ・1日1錠女性が飲む薬(婦人科などで<sup>しやうほう</sup>処方される)
- ・1ヶ月分 2000円~3000円程度
- ・性感染症予防の効果はない
- ・月経痛や月経不順の治療にも使われる

● <sup>こんどうむ</sup>コンドーム

- ・1回使い捨てで男性がつけるゴムの袋
- ・ドラッグストアやコンビニで買える
- ・1箱 600円~1000円程度
- ・性感染症予防に有効
- ・つけ方をまちがえたりやぶれると避妊に失敗することも



もし避妊に失敗したときは、<sup>きんきゆうひにん</sup>緊急避妊を!

万が一、避妊に失敗した時や<sup>せいひがい</sup>性被害にあった時は、婦人科・産婦人科を受診し、**72時間(3日)**以内に**緊急避妊ピル**(アフターピルとも)を女性が服用することで、高い確率で妊娠を防ぐことができます。価格は1.5万円ほどのところが多いですが、医療機関によって異なるので、事前に確認しましょう。下記の問い合わせ窓口で処方してくれる機関を検索・紹介してもらうことができます。

日本家族計画協会HP: <http://www.jfpa-clinic.org/search/ec-search.php>  
思春期・FPホットライン: 03-3235-2638 月~金/10:00~16:00(祝祭日はお休み)

※緊急避妊は日常的に使う方法ではありません。この機会により確実に避妊できる低用量ピルについて12医療機関で相談しましょう。緊急避妊ピル、低用量ピルは必ず医師の指示にしたがって服用しましょう。

性感染症ってどううつるの?

性感染症は性関係によって<sup>ねんまく</sup>粘膜からうつります。性器同士<sup>せつしやく</sup>の接触だけではなく、性器と口や肛門の接触でも感染することもあります。**感染しても症状が出ないこともあるので、気がつかないうちに相手にうつたり、ほおっておくと赤ちゃんができにくい体になったり、赤ちゃんに感染させてしまうこともあります。**



性感染症予防のためには?

**コンドーム**によって高い確率で感染予防ができますが、コンドームで防ぐことのできない性感染症もあります。**性的な接触をしないのが一番確実な方法**です。

また、感染しても無<sup>びん</sup>症状の病気もあるので、**気になることがあれば検査**をするのもおすすめです。B型肝炎やHPV(子宮頸がんや性器にできるイボの原因といわれているウイルス)の感染を予防するワクチンも開発されています。

もし「性感染症かも?」と思ったら?

**保健所**や**病院**(男性は泌尿器科・皮膚科など、女性は婦人科・産婦人科など)で、検査をして感染の確認ができます。感染がわかったら、症状がなくても**パートナーに検査**を受けてもらい、感染していた場合は**パートナーと一緒に治療**をしましょう。

全国の保健所では**無料・匿名**でHIVや梅毒などの性感染症の検査ができます。

【病院にいくと、どのくらいお金がかかるの?】

保険証を見せることにより、医療費の一部負担のみが必要な診療を受けることができます。どのような検査・診療をするかによってもちがいますが、保険証持参の場合、初診料・検査で3000~5000円くらいのところが多いようです。保険証を使った場合、医療機関名と医療費のお知らせが加入者に届きますが、病名や検査内容などの記載はありません。

HIVに感染したら、どうなるの?

HIVというウイルスに感染すると、<sup>せんぶく</sup>潜伏期間のうちに身体<sup>ていこうりきよ</sup>の抵抗力が落ち、さまざまな病気にかかりやすくなってしまいますのがエイズです。潜伏期間は数ヶ月から10数年と個人差がとても大きく、その間抵抗力が落ちる人もいれば、まったく問題なく急に発症する人もいます。現在はHIV感染の早期発見と治療で、**必ずしも死に至る病気ではなくなりました**。現代の日本の医学では、きちんと治療をうけていればふつうに働いたり、日常生活を送れるようになってきているので、**早い時期での検査による発見・対応**が大切です。

14